学籍番号 1832008　　氏名鈴木 結子　　指導教員　花澤 信太郎

浜松における野外劇の可能性について

1. 研究背景と目的

現在、日本では多くの野外イベント事業が開催され、各市町村では「町興し」や「村興し」の一環として考えられている事例も見られる。

それらの原点を探ってみると、古代ギリシャの円形劇場で行われていた神話をモチーフにした劇や、神社や寺で行われていた神事、薪能等から始まったように推測する。

これらの共通点として「人」が何かを「演じる」姿を「人」が「観る」様子がある。

そのために、遠い道のりを通う人々も多くいる。

しかし、一方では身近に行われている事例について、興味がない、よく分からないといった意見も多くみられるのが現状である。

現在でも、日本で行われているいくつかの野外劇は世界から注目を集め、結果として過疎の村に人が集まるといった「村興し」的効果を生み出している野外劇もある。

そうした事例を元に、野外劇の特徴、方法を整理し、それらの結果を元に「浜松」を舞台とした野外劇企画を提案する。

2.企画提案

浜松市を舞台とした野外演劇企画を立案し、コンセプトを「巻き込む」としてそれに基づく調査を実施した。

概要は以下に示した通りである。

日時：2020. 7. 11(Sat)雨天決行
予備日：2020. 9.12(sat)
場所：松菱跡地(仮)
内容：「夏の夜の夢」野外劇上演
演出：近江 木の実
出演者：浜松市及び周辺地域在住者
10 名程度

2-1. 上演の目的

浜松における野外劇上演の可能性を追求することにより、浜松市内における空き空間の新な活用回路を見出すと共に、より多くの市民の皆様に「演劇」を通じて浜松を新たな視野を持って観て頂きたいと考えている。

また、参加者を様々な世代、バックグラウンドを持つメンバーで構成することにより、視野を広げた表現方法を模索する。

結果として、浜松での野外劇上演の可能性を広げると共に、浜松市中心部及び市内における空きスペースの利用法検討により、今後の活用方法を模索、検討するきっかけとなることを望む

2-2.開催地

開催場所を浜松市中区にある「松菱跡地」とした。

図 1　松菱跡地現地写真

総面積：約 0.48 ヘクタール(1456.37 坪)

・利点

JR 浜松駅から徒歩約 2 分と距離が近く、公共交通機関を用いての来場に支障をきたす可能性が低い。

有料、無料を問わず駐車場は徒歩圏内に 15 カ所ある。

それにより駐車場は十分確保が可能であり、公共交通機関及び自家用車での来場にも対応可能である。

敷地には十分な広さがあり、演劇+関連した催し物を同じ敷地内で実施しやすい。

・使用に際する注意点

①ビジネス目的での使用は不可

②騒音対策

③砂利対策

④緊急の工事着工となった場合

これらの問題を精査した上で、本番 2 ヵ月前に許可を受ける。

3.舞台装置提案

図 2　舞台全体図

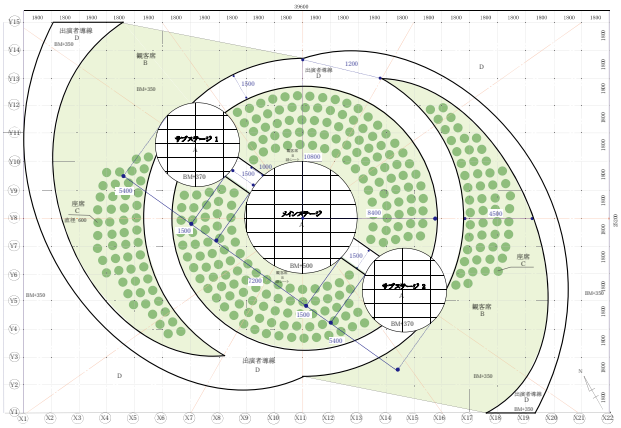

図 3　平面図

舞台センターより半径 22mの範囲をアクティングエリア、及び客席として配置する。

イントレ及び音響照明機材関係もこの範囲内若しくは近い範囲で配置する。

これにより、可視領域の確保及び周辺施設との距離を保つ事が出来、騒音等の対策に繋げる狙いがある。

3-1.ステージ概要

・アクティングエリア(ステ―ジ)

アクティングエリアとしてステージを数カ所に設け、演者は各所を移動しながら演技する。

ステージとして 3 カ所を固定し、その間を移動可能にすることで、演者は空間全体を縦横無尽に動くが可能となる。

・アクティングエリア(通路)

観客の目の前を演者が通過するよう通路を配置する。

通路としての装置を設けるのでは無く、客入れの際はロープ等で仕切りを作り、演技が始まる直前にそれらを外す事で観客の侵入を防ぐと共にアクティングエリアの確保を行う。

・客席

アクティングエリア内に客席を設け、観客と出演者の一体感を図る。

客席を桟敷とし、座席を指定しないことで観客は各々任意の場所へ着席出来、演者の動きに合わせて観客も視点を動かす事を可能とする。

客席内のカラーをグリーンで統一し、客席全体が「森」を模している印象を与える。

4.おわりに

以上の企画提案から、野外演劇「夏の夜の夢 in 浜松」を始動した。

本企画によって、視点である「野外劇」を通して日々生活している場所を「舞台空間」として観る事となり、コンセプトに示すように「浜松」を巻き込んだ舞台制作の在り方を示している。